



東北コットン
TOHOKU
COTTON
PROJECT



豊かな実りへ願いを込めて 東北コットン、3年目の種まきです

津波被害を受けた農地に綿を植え、
生産者・協力企業が一体となって復興をめざす
「東北コットンプロジェクト」。

参加メンバーも増え、より本格的な取組みとなってきました。
たくさんの綿が実りますように一
思いを込めながらみんなで種をまき、
いよいよ3年目のスタートです。

文／宮川真紀 撮影／中野幸英



若葉が目にもまぶしく初夏が感じられる5月、東北コットンプロジェクトの種まきが始まりました。今年は栽培場所が増え、仙台市荒浜、名取市、東松島市の3カ所で綿を育てます。プロジェクトの参加企業も70団体以上となり、さまざまな分野からの協力を得ながら栽培の工夫に取り組んでいます。

昨年栽培面積を拡張したものの、綿が負けてしまうほどの雑草に悩まされた荒浜地区では、確実に管理できる規模の作付けとなりました。地域の農業再生を試みる農業法人としてスタートした『荒浜アグリパートナーズ』では、綿のほかにも米、大豆、野菜の生産を開始。震災後すぐに綿栽培を始めたことが、農業再建への道すじにつながった、といいます。3年ぶりに田植えが出来たことに、農家のみなさんの感激もひとしおでした。

種まきには、今年も大勢のプロジェクトメンバーが集まりました。JAL

東北コットンプロジェクトとは

2011年に始まった東北コットンプロジェクトは綿の栽培、紡績、商品化、販売を参加各社が共同で展開し、農業を通じて東日本大震災の復興を目指すプロジェクトです。被災地の農業法人、アパレル関連企業や団体などが集結し、種まきから草取り、収穫へと試行錯誤しながら綿を栽培しています。そして、各社が東北への思いを込めてさまざまな商品を展開していきます。

www.tohokucotton.com



グループからも荒浜に5名、東松島に15名が参加。晴れ渡る空の下、一緒に汗を流しました。広い畑に一列に並んで、ロープにつけた印の位置に発芽した苗や種を植え、一歩ずつ前進していきます。一粒ずつ、一歩ずつ。震災からの復興に向けて、プロジェクトも少しずつ前に進んでいきます。

JAL
オリジナル商品も

誕生!

プロジェクト参加企業と共同で JAL オリジナル「東北コットン・ポケットチーフ」、
「東北コットン ベビーグッズ詰め合わせ」を企画し商品化しました。
お手持ちの JAL のマイルと交換可能です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

www.jal.co.jp/jmb/cotton/

JALは東北を
応援しています。

